



非正規雇用フォーラム・福岡

嘱託社員

パート

契約社員

ニュース



発行；非正規雇用フォーラム・福岡

福岡市博多区千代4丁目 29-51

正規・非正規の枠を超えて 1人ひとりが人間らしく働ける社会を！ —非正規雇用フォーラム・福岡第11回総会を開催—

5月25日ココロンセンター研修室で、非正規雇用フォーラム・福岡第11回総会を開催しました。

当日は、全農林の轟政浩さんを議長に選出し議事を進行しました。落石共同代表はあいさつの中で、「安倍首相は、一億総活躍を謳い、同一労働同一賃金を提起し、争点ほかしの主張をしている。日々思っていることを怒りに変え参議院選挙の勝利をめざして頑張ろう。」と述べました。来賓として、参議院議員選挙福岡県選挙区予定候補の竹内信昭社民党副代表があいさつに立ち、「学校現場でも教職員の非正規化がすすんでいる。一人ひとりの生徒と本気で向き合う教育を行うためには正規職員でなくてはできないことが多い。人間には、仕事8時間、生活8時間、睡眠8時間の生活サイクルが必要であるが、今は、超過勤務等過重労働で奴隷状態に置かれている。この現状は政治でしか解決することはできない。政治の転換をめざして参議院選挙に勝利したい。」と熱く語りました。その後、2015年度の経過報告、会計報告、監査報告、2016年度の活動方針、予算案が拍手で承認され、当面のとりくみを確認し、2016年度役員の紹介とあいさつで、第1部の総会を終了しました。



続く第2部では、NPO法人福岡ジェンダー研究所の倉富史枝さんが「私が怒っていること」をテーマに講演を行いました。その概要は次の通りです。

わたしが怒っていること 「～働きがいのある人間らしい仕事を次世代に残せるか～」

◇子どもの貧困格差拡大

「都道府県別子どもの貧困率」によれば、子どもの貧困率は、2012年で全国平均13.8%、福岡県はワースト4位の19.9%となっている。親の収入と子どもの学歴は直結している。東京大学の学生の親が高収入であることがその証拠である。収入400万円以下の家庭では、せめて男の子だけはと4年生大学に進学させ、女の子は高学歴が望めない状況が出てきている。これは女性の非正規化にもつながっている。

◇若者の非正規雇用化と未婚化の相関関係

「結婚・家族形成に関する意識調査」によれば、2010年における生涯未婚率は、女性10.6%、男性20.1%、そして、未婚男性で年収400万円以上が40.8%であるのに対し、400万円未満は61.6%で全体の3分の2に迫っている。男性も非

正規化がすすみ、経済的に十分な生活ができるかどうかの懸念が広がり、結婚生活への不安は大きく、世帯収入 400 万円をさかいに子どもの数が違うという結果も出ている。

◆若年層の未婚の母の増加

授かり婚(できちゃった婚)についてしてみると、15～19 歳以下で 8 割、その離婚率は 58.4%、また、20～24 歳で 6 割、その離婚率は 42.5%となっている。未婚の若い母親が増えている状況で、高校を卒業できたのかと心配される。フランス等では、未婚でも子どもを産んで育てることができる環境が整えられている。

子どもの虐待とりわけ子殺しは出産 0 日が多く、しかも、母親による率が高い。そうせざるを得ない状況があるということだ。少子化対策として手だてをとるべきである。



◆日本の長時間労働とワーク・ライフ・バランス

2007 年「仕事と家庭の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」の行動指針の中で、男性の育児休業の数値目標を 10%としたが、現在に至ってもこの目標は達成されていない。福岡県男女共同参画意識調査の育児休業が取得できない理由について、取得対象の正社員男性は、「職場に取りやすい雰囲気がない」45.2%、「仕事上周囲の人に迷惑がかかる」46.8%と回答している。一方管理職男性は前者 31.9%、後 59.7%と回答し、管理職男性が職場環境の改善に積極的でないことが明らかになった。これでは働き盛りである子育て期の男性の長時間労働は続き、育児休業取得がすすむはずがない。

◆大学生が掲ぐ仕事と家庭の両立

2016 年 4 月「福岡県立大学家族社会学受講者調査」を行った。学生たちは、男性が育児休業を取得できない理由について次のように回答している。「経済的に困る」(女子 31.8%、男子 25.8%)と「周囲に取った男性がいない」(女子 27.1%、男子 22.6%)については男女であまり大きな開きがなかった。これに対し、「職場に取りやすい雰囲気がない」(女子 80.0%、男子 67.7%)では圧倒的に女子の回答が多く、逆に「取ると人事評価や昇級に悪い影響が出る」(女子 16.5%、男子 32.3%)では男子は女子の倍の回答であった。また、男女ともに育児・介護と仕事の両立をするために必要なことについては、「職場の意識の形成」「休業期間中の経済的支援の充実」が男子・女子ほぼ同じ率で回答していた。さらに、労働基準法については 7 割が知っていたが、労働組合法については 27.6%しか知らず、若年層に労働法制について知らせる必要があることがよくわかった。

◆家族主義的福祉制度が狭める子どもの可能性

日本の社会構造は家族主義が中心である。高度成長期には、男性は雇用保障され高賃金で働き、女性は専業主婦として家族負担によるケアを担っていた。このしくみはもう破綻してしまっただにもかかわらず、もう一度これに戻そうという動きがすすめられている。一方、低成長経済期に入って、子どもの貧困問題が拡大してきている。

◆女性の活躍を阻む「滅私奉公」

女性活躍推進法が成立したが、男性並みに長時間労働することが女性の活躍なのか。そうではなく、男女共同参画社会の実現、男性のワーク・ライフ・バランスの実現が必要だ。女性の活躍のためには、男性の「滅私奉公」という働き方を解消することが課題なのである。

◆ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)実現に向けて

家族がケアを負担することには限界がある。ケアは社会化することが必要だ。親の収入で学歴が変わるのは民主的ではない。教育の社会化が必要だ。男女共同参画が求めていたものは自己決定できる社会の実現だ。

「私が怒っている」のは、性別役割分業意識にもとづいた日本の社会構造だ。これを変えない限り、日本の社会は変わらない。あきらめることなく前進をしていくことが必要だ。

◆社会構造を変えるための運動をあきらめずに継続していこう!

私たちは日々怒りを感じ、それを原動力として活動を続けています。講演を通して、その怒りがどこから来るのかをはっきりと認識することができました。

今後も、人間らしく働くことのできる社会づくりをめざしてと火みを積み上げていきましょう!!

辺野古の海は泣いていた

「行きたい！行かなければ！」とずっと思っていた沖縄に5月15～16日やっと思って行くことができた。

「復帰44年5.15平和と暮らしを守る県民集会」に参加し、翌日には辺野古のテント村を訪問した。やっぱり沖縄の空気を吸わなければわからないことがあると感じた2日間だった。

沖縄をかえせ

沖縄に到着して向かった「復帰44年5.15平和と暮らしを守る県民集会」会場である沖縄新都心公園には、ちょうど「5.15平和行進」(沖縄全土を3コースに分かれ3日間歩き通した)の参加者のみなさんが続々と会場にあつまってこられていた。ステージでは山城博治実行委員長が挨拶のあと「今こそ立ちあがろう！今こそふるいたとう！」と大きな声で歌われ、いきなり背筋が伸びた！藤本平和フォーラム代表、城間那覇市長(副市長による代読)、照屋衆議院議員はじめ多くの方々から挨拶や報告をうけたあと、平和行進正副団長から「行進に参加し沖縄の現状はメディアに載らないことをしつた」「沖縄の現実をまざまざと見せつけられたことを本土に帰って伝えたい」などなど、3日間の行進で目に焼きつけ心に刻んだ沖縄のことを、真っ黒に日焼けした顔で力強く報告された。最後にみんなで「沖縄を返せ」を大合唱し、心が一つになったところで目頭が熱くなった。



「雨はまるで辺野古の海の涙のよう」

翌日はあいにくの雨！辺野古に向かうバスの中で、「テント村には毎日各市町村から自主的に座り込みに参加している。辺野古に行くのは年配者達、若い人はいざという時に立ち上がってもらう、粘り強く力強く冷静に、息長く闘い続けている」とのお話を聞いた。浜のテント村(へり基地反対協議会が運営)に着いたころには激しい雨！まるで辺野古の海の涙のよう。浜のテント村事務局

長の篠原孝子さんから話を聞く。篠原さんはかつてイラク戦争のとき、沖縄からイラクに派兵していたこと知り、自分たちも加害者なのだと知り、一から沖縄のことを学び、岐阜から沖縄へと移住、座り込みに参加してナント13年目！！その思いの強さにただただ圧倒される！ここで座り込みが始まったのは2004年4月19日、今日(5月16日)で4411日目を迎えたとのこと、再び圧倒された！アメリカと日本政府は、世界一危険な普天間飛行場の閉鎖のため、代替地は辺野古しかないかのように言うが、実は辺野古に軍港を作る設計図は1966年にすでにできていた。ところが当時アメリカはベトナム戦争で財政が底をつき断念した。「なぜ辺野古なのか」それはアメリカにとっては、辺野古の海は水深が深く軍艦が入港でき、弾薬庫も工場もあるので、戦争に行くための最新鋭の基地が出来上がるからであり、日本政府にとっても、自衛隊が共同して基地使用できるなどのメリットがあるとのこと。けれども、辺野古の海はサンゴの海であり、ジュゴンやウミガメが棲息するとても美しいところだ。沖縄の人たちはここを海洋保護区として観光地にし



ていきたいと願っている。にもかかわらず、この海に本土から土砂を運び込み埋め立てようとしている。アメリカでも基地反対の声が上がっている、次世代にどういう未来を残すのか—今こそ真剣に考えアクションを起こすとき！全国で反対の闘いを！私たちは同情を求めているのではなく、求めているのは真の連帯だ。と穏やかなけれど揺るぎない声で話された。

「勝つ方法はあきらめないこと」

最後にキャンプシュワブ・ゲート前のテント村に到着。2014年7月から、基地建設に反対する沖縄の人々が、このキャンプシュワブのゲート前で座り込みを始め今日で680日目。国は県内外から機動隊を投入し、基地建設に反対する人々を、暴力的に排除した。今年3月、国と沖縄県との裁判の和解がとりあえず成立し、今は辺野古の埋め立て工事は一時中止されている。ゲート前の静かな基地を目にして、「国よ、工事を再開するな！沖縄の声に耳を傾け、辺野古の海を沖縄の人々に返せ！」と思った。テント村では、沖縄の魂ともいべき山城博治さんをはじめ、みなさん私たちが熱烈歓迎してください、歌えや踊れや語れやの大賑わい、私たちが少しも飽きさせないようにと、なんと優しい心配りにまたまた涙！ 激励に来たのは私たちのはずがすっかり励まされる始末。「座り込めここへ」「今こそたちあがれ」「沖縄をかえせ」といった闘いの歌が沖縄には本当によく似合う。ほんの短い時間だったがしっかりと心がつながった。沖縄の人たちは激しく抗議行動をした直後でもエイサーエイサーと踊りだすという。無抵抗で非暴力、粘り強くあきらめず穏やかにスクラム組んでという沖縄の闘

い！「闘いは楽天的であれ」を体現している人々にまでも圧倒された。「勝つ方法はあきらめないこと！」まさにその通りだ、肝に銘じよう。「沖縄は元気だ！沖縄は負けてない！」を実感し、未練を残しつつ沖縄を後にした。



琉球の時代から長い間蹂躪され続け、日本のわずか0.6%の広さしかない沖縄に74%の基地が存在する、沖縄の深い悲しみ、怒り、痛みを思うとき、自分に何ができるのか—そうだ、福岡でもできることがある。それは辺野古の埋め立てに使われる土砂を運ばせないことだ(3分の1は門司から運ばれる)。そう自分に言い聞かせ帰路についた。(山下)

怒りのごぼうコラム

押し付け憲法論の詭弁性

安倍晋三ら憲法改憲派は、現日本国憲法はGHQから押し付けられた憲法であり、独立国家としては独自の憲を制定しなければならないと声高にいう。この「自主憲法論」は他の先進諸外国を見ても当然のことだとも。

自民党らがいう「押し付け憲法論」について、Twitterで憲法学者である小林節氏から次のようにご意見をいただいた。

敗戦時に当局が「押し付けられた」のは事実でしょう。

しかし、主権者国民がそれを歓迎しそれとともに歩んで来たことも事実です

(小林節 怒りの一問一答 (@SetsuKobayashi) 2016年7月6日)

小林氏の意見を聞いて、安倍晋三のいう「自主憲法論」はまさに詭弁だと思った。小林氏がおっしゃるように、押し付けられた憲法であろうが、戦後70年間、現日本国憲法を守って日本が一度も戦争をしてこなかったという揺るぎない事実こそが重要だということ。言い換えれば、国民主権のもとに権力者の暴走を食い止め、私たち国民の基本的人権を保証し、平和主義によって日本が戦争しない国として、現日本国憲法は70年間にわたってしっかり機能してきたということだ。

例えば、アメリカからの押し付け憲法を後生大事に守ることが独立国家として恥ずかしいという人間が、日本独自の様式をやめ西洋文化の象徴でもある散切り頭で洋装をしているのはなぜか？つまり、押し付けだろうが西洋スタイルだろうが、それは「機能的」かつ「合理的」だから採用され続けたという証拠である。